

人口動態統計月報（概数）（平成18年1月分）における ICD-10（2003年版）準拠の死因統計の公表等について

- 人口動態統計では、毎月、調査月の約5ヶ月後に、出生、死亡、死産、婚姻及び離婚について、日本における日本人に係る分をとりまとめて、人口動態統計月報（概数）として公表している。
- 死亡及び死産における死因の分類については、世界各国と同様にWHOの勧告に準拠して適用しているところであるが、人口動態統計月報（概数）（平成18年1月分）より、これまでの勧告であるICD-10（1990年版）準拠から、新しい勧告であるICD-10（2003年版）準拠となったので、平成17年12月以前の数値との比較に際しては留意されたい。（別添1参照）

※・ICD-10：「疾病及び関連保健問題の国際統計分類第10回修正」

(International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems, 10th Revision)

・日本では「疾病、傷害及び死因の統計分類」と称している。

- 人口動態統計の利用の便宜のため、人口動態統計月報（概数）（平成18年1月分）より、参考表として当月を含む過去1年間の出生数、死亡数、死産数、婚姻数及び離婚数の動向を公表している。（別添2参照）

※毎月、調査月の約2ヶ月後に、日本における日本人に係る分のほか、日本における外国人、外国における日本人に係る分等を含む統計として公表している人口動態統計速報については、平成18年4月分より同様の参考表を公表している。（速報のホームページ掲載場所は月報と同じ）

厚生労働省ホームページ (<http://www.mhlw.go.jp>)

掲載場所：「統計調査結果」→「最近公表の統計資料」→「月報で公表・提供しているもの」

→「人口動態統計月報（概数）」平成18年1月分

平成 18 年 7 月 18 日
統計情報部人口動態・保健統計課

ICD-10（2003年版）適用に伴う人口動態統計月報（概数）における死因統計の変動等について【情報提供】

我が国の人口動態統計等に用いる疾病、傷害及び死因の統計分類については、平成 18 年 1 月 1 日より、世界保健機関（WHO）より勧告された「疾病及び関連保健問題の国際統計分類」第 10 回修正（改訂：リビジョン）の 2003 年改正版（アップデート）（以下「ICD-10（2003年版）」という。）が適用されている。

ICD-10（2003年版）の新しい死因分類及び分類ルールが適用されたことに伴い、下記のとおり「人口動態統計月報（概数）（平成 18 年 1 月分）」の死因統計（「死因簡単分類」及び「感染症分類」）において、これまで用いていた ICD-10（1990 年版）から変動等が生じている。

ICD-10（2003年版）の適用に伴う ICD-10（1990年版）からの主な変更点については、「ICD-10（2003年版）・主な変更点」（別紙）を参照されたい。

なお、各死因における件数の変動については、新たな死因分類及び分類ルールの適用による影響のほか、各死因固有の変動による増減が含まれていることに留意が必要である。

今後も引き続き、ICD-10（2003年版）の適用に伴う影響が死因統計上どのように現れるか調べていきたい。

記

1. C型肝炎の一部を慢性として取り扱うことによる影響（「感染症分類」（注1））
C型肝炎について、急性か慢性か不明なものについては全て、急性という取扱いを行ってきたところであるが、ICD-10（2003年版）の適用に伴い、期間不明又は6ヶ月以上のC型肝炎は、慢性として取り扱うこととなり、急性C型肝炎の範囲が縮小する。
人口動態統計月報（概数）の段階で公表される統計には、C型肝炎について急性か慢性かの区分によるものはなく、月報の統計上現れる影響としては、感染症

分類の表でB型肝炎及びC型肝炎を含めた「急性ウイルス肝炎」の件数が減少する方向に働くこととなる。なお、C型肝炎を急性・慢性に区分した統計については、人口動態統計年報において公表する。

○ 感染症分類、死因簡単分類（注1） 死亡数・対前年同月比

感染症 分類コード	死因 (感染症分類)	1月		
		平成18年 (件数)	平成17年 (件数)	対前年同月比 (対前年=100)
In505	急性ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く)	36	444	8

※ 急性ウイルス性肝炎として分類されていたC型肝炎の一部が、慢性に分類されたことによる。

死因簡単 分類コード	死因	1月		
		平成18年 (件数)	平成17年 (件数)	対前年同月比 (対前年=100)
01402	C型ウイルス肝炎	464	462	100

※ C型ウイルス肝炎は急性も慢性も含むものであり、範囲の変更はない。

2. 耐性菌に関する新分類の追加による改変（「感染症分類」）

感染症分類に耐性菌に関する以下の5分類が新たに追加となった。

感染症 分類コード	死因 (感染症分類)	平成18年 1月(件数)
In528	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0
In529	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0
In532	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0
In538	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	116
In539	薬剤耐性緑膿菌感染症	1

※ バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌（VRSA）、バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）、ペニシリン耐性肺炎球菌（PRSP）、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）、薬剤耐性緑膿菌（MDRP）

3. 分類ルール（原死因選択ルール）の変更による主な影響（「死因簡単分類」）
死因統計は、原死因（注2）による統計であり、原死因は死亡届に記載される死亡診断書の情報から、ルールに基づき選択・決定されている。

- (1) これまで、「心停止」と記載された場合には「不整脈及び伝導障害」に、「低血圧」又は「循環器障害」と記載された場合には「その他の循環器系の疾患」に、「急性呼吸不全」又は「呼吸不全」と記載された場合には「その他の呼吸器系の疾患」に分類されてきたところであるが、今回の改正により、これらは「不明確な病態」であるとされ、死亡診断書の情報に基づき可能な限り原死因を選びなおし、他の病態を原死因に選択することとなった。

このため、当該ルールの変更による影響としては、「その他の循環器系の疾患」及び「その他の呼吸器系の疾患」の件数が減少する方向に働き、それらの病態と共に死亡診断書に記載されることの多い病態の件数が増加する方向に働くこととなる。

- (2) 「貧血」又は「低栄養（死因簡単分類上は「その他の内分泌、栄養及び代謝疾患」に含まれる。）」について、死亡診断書に「麻痺性疾患（「脳内出血」、「脳梗塞」等）」、「認知症」又は「神経系の変性疾患（「パーキンソン病」、「アルツハイマー病」等）」など自立能力の制限をきたす病態が直接影響を及ぼしていると記載されている場合には、自立能力の制限をきたす病態を原死因とすることとなった。

このため、当該ルールの変更による影響としては、「貧血」及び「その他の内分泌、栄養及び代謝疾患」の件数が減少する方向に、「麻痺性疾患」、「認知症」及び「神経系の変性疾患」に分類される死因の件数が増加する方向に働くこととなる。

- (3) 脳内出血や脳梗塞等の脳血管疾患による認知症については、これまで「脳内出血」や「脳梗塞」を原死因としていたが、「脳血管疾患による認知症（死因簡単分類上「血管性及び詳細不明の認知症」に含まれる。）」を原死因とすることとなった。

このため、当該ルールの変更による影響としては、「血管性及び詳細不明の認知症」の件数が増加する方向に、「脳内出血」及び「脳梗塞」の件数が減少する方向に働くこととなる。

○ 死因簡単分類 死亡数・対前年同月比

死因簡単 分類コード	死 因	1 月		
		平成 18 年 (件数)	平成 17 年 (件数)	対前年同月比 (対前年=100)
03100	貧血	155	179	87
04200	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	594	592	100
05100	血管性及び詳細不明の認知症	403	332	121
06300	パーキンソン病	386	373	103
06400	アルツハイマー病	220	169	130
06500	その他の神経系の疾患	567	511	111
09206	不整脈及び伝導障害	2,354	2,357	100
09302	脳内出血	3,592	3,353	107
09303	脳梗塞	8,004	7,976	100
09500	その他の循環器系の疾患	589	633	93
10600	その他の呼吸器系の疾患	3,582	3,804	94

※ 人口動態統計月報（概数）（平成 18 年 1 月分）においては、「貧血」、「その他の循環器系疾患」及び「その他の呼吸器系の疾患」の件数は、減少傾向にある。また、「血管性及び詳細不明の認知症」、「パーキンソン病」、「アルツハイマー病」及び「脳内出血」の件数は増加傾向にある。

（注 1） 人口動態統計に使用する主な死因の分類

○ 疾病、傷害及び死因の統計分類 (人口動態統計年報のみ)	死因基本分類	分類数 約 14,000
○ 死因簡単分類	} (人口動態統計月報でも対応)	132
○ 選択死因分類		34
○ 乳児死因簡単分類		56
○ 感染症分類		88

（注 2） 原死因：死亡の防止という観点から、病的事象の連鎖を切るか、ある時点で疾病を治すことが重要である。また、最も効果的な公衆衛生活動の目的は、その活動によって、原因を防止することである。この目的のためにWHOにより以下のように定義された死因。人口動態等では単に死因といている。

<定義>

- ・ 直接に死亡を引き起こした一連の事象の起因となった疾病もしくは損傷
- ・ 致命傷を負わせた事故もしくは暴力の状況

I C D - 1 0 (2 0 0 3 年 版) ・ 主 な 変 更 点

I I C D - 1 0 (2 0 0 3 年 版) 適 用 の 経 緯

疾病及び関連保健問題の国際統計分類第10回修正（ICD-10: International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems, 10th Revision）は、1990年5月、第43回世界保健機関（WHO）総会において採択され、わが国では平成7年1月からこれを使用することとし、人口動態統計も平成7年1月分からICD-10に基づいて分類している。

その後、医学の進歩等に対応するため一部改正が行われ1998年以降2003年までの改正が集積されたICD-10(第2版)が2004年10月にWHOより勧告された。わが国においてもWHOの最新の勧告の国内への適用(ICD-10(2003年版))について平成17年7月に社会保障審議会統計分科会より答申がなされ、平成17年10月の総務省告示第1147号に基づき、人口動態統計においても平成18年1月分から適用することとなった。

II I C D - 1 0 (2 0 0 3 年 版) の 主 な 改 正 点

1. WHO 勧告に基づく改正

(1) 新たな分類項目の設定（特殊目的用コード利用）

- ・重症急性呼吸器症候群（SARS）
- ・抗生物質に耐性の細菌性病原体

(2) 項目の移動

- ・胃ポリープ

新生物（D13.1）から消化器系の疾患（K31.7）へ移動

- ・大腸<結腸>のポリープ

新生物（D12.6）から消化器系の疾患（K63.5）へ移動

等

(3) 分類項目の廃止及び新設（特殊目的用コード以外）

廃止 8

新設 13

・ 肝臓提供者<ドナー>（Z52.6）

・ 心臓提供者<ドナー>（Z52.7）

等

(4) 死亡統計における原死因選択ルール等の変更

死亡統計における原死因の選択について、コーディングルールの一部変更が行われ、また適用例が具体的に示される等の変更が行われた。

2. 法令の改正等に基づく名称の変更

精神分裂病 → 統合失調症

痴呆 → 認知症

3. 医学の進歩等に対応した名称の変更

慢性関節リウマチ → 関節リウマチ

妊娠中毒症 → 妊娠高血圧症候群

等

Ⅲ 今後の対応

WHO は今後も継続的に ICD-10 の改正（アップデート）を行うとともに、ICD-11（リビジョン）に向けての検討についても開始したところである。

わが国においても、ICD の国内への普及・啓発及び国際的動向に対応するため社会保障審議会統計分科会の下に疾病、傷害及び死因分類専門委員会を設置し、恒常的な検討を行うこととしている。

死因簡単分類別にみた死亡数 (2-1)

(月報(概数)第4表より抜粋)

死因簡単 分類コード	死 因	1月		
		実数		
		平成18年	平成17年	差引増減
	総数	108 385	102 494	5 891
01000	感染症及び寄生虫症	2 278	2 139	139
01100	腸管感染症	205	229	△ 24
01200	結核	205	184	21
01201	呼吸器結核	175	167	8
01202	その他の結核	30	17	13
01300	敗血症	862	693	169
01400	ウイルス肝炎	561	576	△ 15
01401	B型ウイルス肝炎	61	79	△ 18
01402	C型ウイルス肝炎	464	462	2
01403	その他のウイルス肝炎	36	35	1
01500	ヒト免疫不全ウイルス〔HIV〕病	8	7	1
01600	その他の感染症及び寄生虫症	437	450	△ 13
02000	新生物	29 213	28 629	584
02100	悪性新生物	28 307	27 785	522
02101	口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物	442	484	△ 42
02102	食道の悪性新生物	1 048	969	79
02103	胃の悪性新生物	4 333	4 341	△ 8
02104	結腸の悪性新生物	2 252	2 233	19
02105	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	1 184	1 175	9
02106	肝及び肝内胆管の悪性新生物	2 985	2 916	69
02107	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物	1 367	1 456	△ 89
02108	膵の悪性新生物	1 969	1 951	18
02109	喉頭の悪性新生物	85	101	△ 16
02110	気管、気管支及び肺の悪性新生物	5 589	5 240	349
02111	皮膚の悪性新生物	108	83	25
02112	乳房の悪性新生物	977	956	21
02113	子宮の悪性新生物 ¹⁾	451	454	△ 3
02114	卵巣の悪性新生物 ¹⁾	341	370	△ 29
02115	前立腺の悪性新生物 ²⁾	879	781	98
02116	膀胱の悪性新生物	488	530	△ 42
02117	中枢神経系の悪性新生物	155	148	7
02118	悪性リンパ腫	747	786	△ 39
02119	白血病	650	581	69
02120	その他のリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物	364	338	26
02121	その他の悪性新生物	1 893	1 892	1
02200	その他の新生物	906	844	62
02201	中枢神経系のその他の新生物	270	259	11
02202	中枢神経系を除くその他の新生物	636	585	51
03000	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	423	407	16
03100	貧血	155	179	△ 24
03200	その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	268	228	40
04000	内分泌、栄養及び代謝疾患	2 116	1 983	133
04100	糖尿病	1 522	1 391	131
04200	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	594	592	2
05000	精神及び行動の障害	534	460	74
05100	血管性及び詳細不明の認知症	403	332	71
05200	その他の精神及び行動の障害	131	128	3
06000	神経系の疾患	1 373	1 245	128
06100	髄膜炎	30	40	△ 10
06200	脊髄性筋萎縮症及び関連症候群	170	152	18
06300	パーキンソン病	386	373	13
06400	アルツハイマー病	220	169	51
06500	その他の神経系の疾患	567	511	56
07000	眼及び付属器の疾患	1	-	1
08000	耳及び乳様突起の疾患	4	-	4
09000	循環器系の疾患	35 685	34 048	1 637
09100	高血圧性疾患	667	593	74
09101	高血圧性心疾患及び心腎疾患	390	352	38
09102	その他の高血圧性疾患	277	241	36
09200	心疾患(高血圧性を除く)	19 822	18 514	1 308
09201	慢性リウマチ性心疾患	265	231	34
09202	急性心筋梗塞	5 512	5 241	271
09203	その他の虚血性心疾患	3 618	3 243	375
09204	慢性非リウマチ性心内膜疾患	804	734	70
09205	心筋症	347	315	32
09206	不整脈及び伝導障害	2 354	2 357	△ 3

死因簡単分類別にみた死亡数（2-2）

死因簡単 分類コード	死 因	1月		
		実 数		差引増減
		平成18年	平成17年	
09207	心不全	6 450	5 961	489
09208	その他の心疾患	472	432	40
09300	脳血管疾患	13 488	13 192	296
09301	くも膜下出血	1 456	1 458	△ 2
09302	脳内出血	3 592	3 353	239
09303	脳梗塞	8 004	7 976	28
09304	その他の脳血管疾患	436	405	31
09400	大動脈瘤及びび離	1 119	1 116	3
09500	その他の循環器系疾患	589	633	△ 44
10000	呼吸器系の疾患	17 837	15 773	2 064
10100	インフルエンザ	349	20	329
10200	肺炎	11 973	10 221	1 752
10300	急性気管支炎	133	101	32
10400	慢性閉塞性肺疾患	1 450	1 272	178
10500	喘息	350	355	△ 5
10600	その他の呼吸器系の疾患	3 582	3 804	△ 222
11000	消化器系の疾患	4 239	3 954	285
11100	胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	366	336	30
11200	ヘルニア及び腸閉塞	559	458	101
11300	肝疾患	1 653	1 570	83
11301	肝硬変（アルコール性を除く）	955	904	51
11302	その他の肝疾患	698	666	32
11400	その他の消化器系の疾患	1 661	1 590	71
12000	皮膚及び皮下組織の疾患	106	91	15
13000	筋骨格系及び結合組織の疾患	449	427	22
14000	腎尿路生殖器系の疾患	2 713	2 582	131
14100	糸球体疾患及び腎尿管間質性疾患	311	260	51
14200	腎不全	2 092	2 023	69
14201	急性腎不全	426	393	33
14202	慢性腎不全	1 126	1 116	10
14203	詳細不明の腎不全	540	514	26
14300	その他の腎尿路生殖器系の疾患	310	299	11
15000	妊娠、分娩及び産じょく ¹⁾	7	8	△ 1
16000	周産期に発生した病態	74	83	△ 9
16100	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	8	5	3
16200	出産外傷	1	-	1
16300	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	33	46	△ 13
16400	周産期に特異的な感染症	4	2	2
16500	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	16	20	△ 4
16600	その他の周産期に発生した病態	12	10	2
17000	先天奇形、変形及び染色体異常	200	186	14
17100	神経系の先天奇形	12	5	7
17200	循環器系の先天奇形	103	99	4
17201	心臓の先天奇形	75	76	△ 1
17202	その他の循環器系の先天奇形	28	23	5
17300	消化器系の先天奇形	7	4	3
17400	その他の先天奇形及び変形	57	56	1
17500	染色体異常、他に分類されないもの	21	22	△ 1
18000	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	3 996	3 421	575
18100	老 衰	2 889	2 594	295
18200	乳幼児突然死症候群	23	28	△ 5
18300	その他の症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に 分類されないもの	1 084	799	285
20000	傷病及び死亡の外因	7 137	7 058	79
20100	不慮の事故	4 418	4 218	200
20101	交通事故	751	772	△ 21
20102	転倒・転落	569	564	5
20103	不慮の溺死及び溺水	824	743	81
20104	不慮の窒息	1 295	1 270	25
20105	煙、火及び火災への曝露	268	201	67
20106	有害物質による不慮の中毒及び有害物質への曝露	96	101	△ 5
20107	その他の不慮の事故	615	567	48
20200	自 殺	2 288	2 344	△ 56
20300	他 殺	44	57	△ 13
20400	その他の外因	387	439	△ 52
22000	特殊目的用コード	-
22100	重症急性呼吸器症候群〔SARS〕	-

死因（感染症分類）別にみた死亡数（2-1）

（月報（概数）第7表より抜粋）

感染症 分類コード	死 因 (感染症分類)	1 月		
		平成18年	平成17年	差引増減
In 101	エボラ出血熱	-	-	-
In 102	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-
In 103	重症急性呼吸器症候群 (病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る)	-	-	-
In 104	痘そう	-	-	-
In 105	ペスト	-	-	-
In 106	マールブルグ病	-	-	-
In 107	ラッサ熱	-	-	-
In 201	急性灰白髄炎	-	-	-
In 202	コレラ	-	-	-
In 203	細菌性赤痢	-	-	-
In 204	ジフテリア	-	-	-
In 205	腸チフス	-	-	-
In 206	パラチフス	-	-	-
In 301	腸管出血性大腸菌感染症	-	-	-
In 401	E型肝炎	-	-	-
In 402	ウエストナイル熱	-	-	-
In 403	A型肝炎	-	1	△ 1
In 404	エキノコックス症	-	-	-
In 405	黄熱	-	-	-
In 406	オウム病	-	-	-
In 407	回帰熱	-	-	-
In 408	Q熱	-	-	-
In 409	狂犬病	-	-	-
In 410	高病原性鳥インフルエンザ	-	-	-
In 411	コクシジオイデス症	-	-	-
In 412	サル痘	-	-	-
In 413	腎症候性出血熱	-	-	-
In 414	炭疽	-	-	-
In 415	つつが虫病	-	-	-
In 416	デング熱	-	-	-
In 417	ニパウイルス感染症	-	-	-
In 418	日本紅斑熱	-	-	-
In 419	日本脳炎	-	-	-
In 420	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-
In 421	Bウイルス病	-	-	-
In 422	ブルセラ症	-	-	-
In 423	発しんチフス	-	-	-
In 424	ボツリヌス症（乳児ボツリヌス症を除く）	-	-	-
In 425	乳児ボツリヌス症	-	-	-
In 426	マラリア	1	-	1
In 427	野兔病	-	-	-
In 428	ライム病	-	-	-
In 429	リッサウイルス感染症	-	-	-
In 430	レジオネラ症	2	1	1
In 431	レプトスピラ症	-	-	-

死因（感染症分類）別にみた死亡数（2-2）

感染症 分類コード	死 因 (感染症分類)	1 月		
		平成18年	平成17年	差引増減
In 501	アメーバ赤痢	2	1	1
In 502	RSウイルス感染症	3	2	1
In 503	咽頭結膜熱	-	-	-
In 504	インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く)	349	20	329
In 505	急性ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く)	36	444	△ 408
In 506	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	-	-
In 507	感染性胃腸炎	203	228	△ 25
In 508	急性出血性結膜炎	-	-	-
In 509	急性脳炎（ウエストナイル脳炎及び 日本脳炎を除く）	14	9	5
In 510	クラミジア肺炎（オウム病を除く）	2	1	1
In 511	クリプトスポリジウム症	-	-	-
In 512	クロイツフェルト・ヤコブ病	15	15	0
In 513	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	1	1
In 514	後天性免疫不全症候群	8	7	1
In 515	細菌性髄膜炎	18	22	△ 4
In 516	ジアルジア症	-	-	-
In 517	水痘	-	-	-
In 518	髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-
In 519	性器クラミジア感染症	-	-	-
In 520	性器ヘルペスウイルス感染症	-	-	-
In 521	尖圭コンジローマ	-	-	-
In 522	先天性風しん症候群	-	-	-
In 523	手足口病	-	-	-
In 524	伝染性紅斑	-	-	-
In 525	突発性発しん	-	-	-
In 526	梅毒	-	3	△ 3
In 527	破傷風	1	1	0
In 528	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-
In 529	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-
In 530	百日咳	-	-	-
In 531	風しん	-	-	-
In 532	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	-
In 533	ヘルパンギーナ	-	-	-
In 534	マイコプラズマ肺炎	1	6	△ 5
In 535	麻しん（成人麻しんを除く）	-	-	-
In 536	成人麻しん	-	-	-
In 537	無菌性髄膜炎	-	-	-
In 538	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	116
In 539	薬剤耐性緑膿菌感染症	1
In 540	流行性角結膜炎	-	-	-
In 541	流行性耳下腺炎	-	-	-
In 542	淋菌感染症	-	-	-
In 601	結核	205	184	21

印刷用ファイル.xls形式(47KB)

平成18年7月 日

(担当) 厚生労働省大臣官房統計情報部 人口動態・保健統計課 月報調整係 電話：03-5253-1111(内線 7475) 03-5253-2813(ダイヤルイン)

人口動態統計月報(概数) (平成18年1月分)

1. 調査の概要

人口動態調査は、「戸籍法」及び「死産の届出に関する規程」により届け出られた出生、死亡、婚姻、離婚及び死産の全数を対象及び客体としているが、本報告は日本において発生した日本人に関する事象を累計したものであり、この月報(概数)に若干の修正を加えたものが年報確定数である。

2. 結果の概要

- (1)出生数は、前年同月に比し2,301人(2.6%)減少(表1)。
(2)死亡数は、前年同月に比し5,891人(5.7%)増加(表1)。
(3)主な死因別死亡数は、肺炎が前年同月に比し1,752人(17.1%)増加、心疾患が前年同月に比し1,308人(17.1%)増加。
(4)当月を含む過去1年間の自然増加数(出生数-死亡数)は△29,600人で、前年同期より106,800人減少(図1)。

表1 人口動態総覧

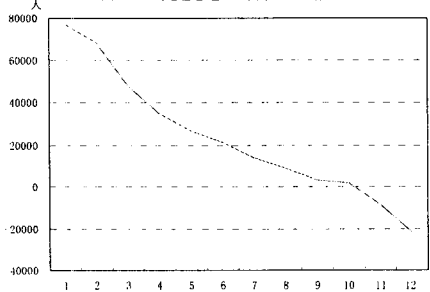
Table with columns for birth/death numbers, percentage change, and year-on-year ratio for 2006 and 2007.

注：前年も概数の数値である。

出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚の年換算率は人口千対。死産の年換算率は出生(出生-死産)千対。自然増加は、出生から死亡を減じたものである。本頁出は「4. 諸率の計算式」参照。



図1 当月を含む過去1年間の自然増加数



※H17年1月～H16年2月～H17年1月までの1年間
H17年2月～H16年3月～H17年2月までの1年間
H18年1月～H17年2月～H18年1月までの1年間

× 平成18年
○ 平成17年

3. 結果表

- 第1表 人口動態総覧、対前年比較(Excel 34KB)
第2表 人口動態総覧、月別(Excel 56KB)
第3表 人口動態総覧、都道府県(15大都市海邦)別(Excel 214KB)
第4表 死亡数、性・年齢(5歳階級)・選択死因分類別(Excel 295KB)

参考表 当月分を含む過去1年間の動向(Excel 20KB)

4. 諸率の計算式

- その月分及び累計分(年換算率) (Excel 22KB)
参考表 諸率の算出に用いた人口 (Excel 18KB)

5. 公表日

月報(概数)の公表は、調査月の5か月後である。なお、12月分については、月報年計(概数)の公表と同時に、6月の予定としている。

トップへ

表2 主な死因別死亡数

Table showing death counts by cause for 2006 and 2007, including categories like cancer, heart disease, and pneumonia.

注：前年も概数の数値である。

死因別の年換算率は人口千対。本頁出は「4. 諸率の計算式」参照。

当月分を含む過去1年間の動向

Large table showing monthly trends for birth, death, and natural increase from 2006 to 2008, broken down by sex and age group.